

広島大学若手教員国際機関等派遣 支援プログラム

報告会

2026年5月26日

坂田のぞみ

IDEC国際連携機構CICE 准教授

Volunteer Services Overseas (VSO)

- 1985年設立。本部＝イギリス。複数国に支部やパートナー組織。
- 世界中の発展途上国（約120か国）を中心に、教育・保健・生計支援などの分野で、専門性を持ったボランティア（教師、医療専門家など）を派遣。
- 活動国での経験やデータをもとに社会調査・評価・政策提言。

Integrated Programme to Improve Access and Learning Achievements in a Safe Environment (IPALSE)

- 現地の資源を活用し、遊びを基盤とする教育法に関する、遠隔教員研修。
- ユニセフによる資金提供、VSOによる実施。
- ウガンダの僻地農村部にある小学校が対象。
- 研修員が現地に住まわずしてハイブリッドで研修を行う。
 - 遊びに基づく教育法に関する動画やインタラクティブなコースを、オフラインで学習。
 - 現地で入手可能な資源を活用して数学の概念を教える方法を解説した動画を視聴。
 - WhatsAppを通じてコーチから定期的にアドバイスを受ける。

VSO Ugandaとの共同研究

- ウガンダの、資源が限られた環境における遠隔形式の現職教員研修（IPALSE）に関して、教員の認識と体験、また生徒の数学学習に与える影響について検証。

リサーチ・クエスチョン：

1. ウガンダの農村部といった、遠隔地で資源の乏しい環境において、小学校の算数授業で、現地で入手可能な教材をどのように活用できるか。
2. ICTを活用した遠隔教員研修は、上記のような環境における小学校教員の指導方法に変化をもたらすか。もしそうであるなら、どのような変化か。
3. 上記の教員研修後、小学生の学習方法に変化が見られるか。もしそうであるなら、どのような変化か。

VSO Ugandaとの共同研究

方法（準実験的混合研究法）：

- 児童のテスト成績：小学3年生を対象とした「早期段階数学評価（EGMA）」のデータ。
- 教員向けアンケート。
- 遊びを基盤とした教育法や地元で製作された教材に関する教員の態度、知識、実践について尋ねる、教員への半構造化インタビュー
- 地元で入手可能な材料で作られた教材の写真、および数学の授業でそれらをどのように活用したかについて、教員と児童による説明。
- 現地スタッフによる授業観察。

参加者：

- ウガンダの僻地にある3つの小学校において、VSOが実施したICTを活用した遠隔教員研修に参加した、計24名の教員および約50名の小学3年生。

派遣期間中の成果

- 共同研究の目的、内容、役割分担を協議。
- 研究デザインを策定し、調査ツールを開発：算数テスト、教室観察ツール、教員向けアンケート、教員インタビューガイド
- ベースライン調査（教員向けアンケート・児童の数学テスト）を実施、初期分析、簡易報告書の作成。

今後の活動

- 教員研修終了後、エンドライン調査を実施。
 - 再度の児童テストと教員アンケート
 - 加えて、教員インタビューと授業観察を実施
- ベースライン調査およびエンドライン調査で収集したデータについて、量的・質的分析を行い、**IPALSE**の有効性および効果を総合的に検証。
- 遊びを基盤とした教授法に関するブレンド型教員研修の有効性について、国際共著論文を執筆。